
【 茨城県教育研修センターメールマガジン 】 「きたやま通信」 Vol.7 [2023.10.13]

※メルマガ「きたやま通信」の配信を個人で希望される方は、こちらの QR コード(もしくは URL) から、教育情報ネットワークのアドレスでの登録をお願いします。



<https://forms.gle/UGNXEb9q5ysYwGBG8>

本メルマガを多くのお知り合いの方々にもご紹介いただけますと幸いです。

■ 1 研修室点描

- ◇1 新任指導教諭研修講座
- ◇2 はじめての ICT を活用した授業づくり研修講座
- ◇3 不登校対応研修講座
- ◇4 新規採用市町村立学校事務職員研修講座 *New!*
- ◇5 令和5年度の長期研修が始まりました

■ 2 実践家の魅力に迫る! ~アクティブラーナーにインタビュー *New!*

■ 3 参考資料等のご紹介

▼チームで救え!こどもを虐待から!!(教育相談課)

■ 4 推挽録 (編集に寄せて)

■ 1 研修室点描

◇ 1 新任指導教諭研修講座

【期日】7月14日(金)

【人数】10名(小5・中4・義務1)

【内容】

〈講義・演習〉「指導教諭の役割」 教職教育課職員

〈実践発表・研究協議〉「指導教諭としての実践」 神栖市立神栖第二中学校 宍戸 奈緒美 指導教諭

〈講義・演習〉「指導教諭におけるコーチング」 教育相談課職員

〈研究協議〉「校内研修の工夫改善」

【受講者の声】

○校内研修では、職員全員が「自分事」となるような研修、実践に結びつく研修づくりの必要性を実感した。今夏、市内の研修会を企画したり、他校の校内研修の講師を担当したりするので、これらを踏まえて研修づくりをしたい。

○研修の必要性、事前打合せ・段取りの大切さなどについて、情報提供のネットワークが共有できて嬉しかった。

○新しい職で不安な面があったが、人を巻き込みながらというお話を聞いて少し安心した。必要性のあるものを

相談しながらやっていこうと思う。

【教職教育課より】

○講義や実践発表後の研究協議では、指導教諭の実践について、大変活発な話し合いが見られ、指導教諭の役割について見通しをもつことができました。

○今後も受講された皆さんは、「Google クラブルーム指導教諭」にて様々な実践の共有を図っていきます。

◇2 はじめての ICT を活用した授業づくり研修講座

【期日】7月28日(金) 31日(月) 8月1日(火)

【人数】98名(小53・中26・義務2・高16・中等1)

【内容】

〈実践発表〉

鹿嶋市立三笠小学校 塚本 英二郎 教諭

北茨城市立中妻小学校 鈴木 淑高 教諭

古河市立諸川小学校 薄井 直之 教諭

〈講義・演習・実習〉情報教育課職員等

【受講者の声】

○実践発表で授業の様子を見て、目指すべきゴールが明確になった。文房具のように身近で日常的に使ってきたい。

○まずは使ってみる。失敗しても、ということ意識して、私自身も児童と共に成長して、より良い授業にしていきたい。

○トラブルの心配から使うのを避けてしまうことがあったが、これからはどんどん使っていきたい。

○ICTだけでなく、ノートや黒板等様々な媒体を活用して、分かりやすく、学びの深まる授業を展開していきたい。

【情報教育課より】

○受講者の皆さん、ICTを活用した授業づくりの具体的な行動へのきっかけや自信を掴んだ方が多かったと感じました。

◇3 不登校対応研修講座

【期日】8月18日(金)

【人数】67人(小32・中22・義務2・高5・特6)

【内容】

〈講義〉「不登校児童生徒の理解と支援」茨城大学 金丸隆太 准教授

〈講義・演習〉「不登校児童生徒のアセスメントに基づく支援」教育相談課職員

〈研究協議〉「不登校児童生徒のチーム支援」

【受講者の声】

○これからの不登校対策は、登校にこだわらず、学べる場や機会の提供が必要であると改めて認識することができた。

○生徒一人一人の背景にしっかりと目を向け、どのような方法がその生徒にとって最良なのか、じっくりと考えながら対応していきたい。

○事例検討では、他の学校の色々な立場の先生方から意見をもらえて大変勉強になった。

【教育相談課より】

○金丸准教授から「子供に適した学びについて柔軟に考えよう」とお話いただきました。受講者からは「登校しない子供たちに対し、価値観を転換していく必要性を感じた」等の声があり、支援の在り方について新たな気づきが得られたようです。

○講義・演習・研究協議では、個々の子供に合った学びの場はどこなのかも含め、十分なアセスメントに基づいて考え、段階に応じてチームで支援していくことのメリットを確認し合っていました。

◇4 新規採用市町村立学校事務職員研修講座 第2日

【期日】9月15日(金)

【人数】小・中・義務 20名

【内容】

〈講義・演習〉「人権教育の現状と課題」 総務課 人権教育室 小林 博 社会教育主事

〈講義〉「生徒指導の現状」 義務教育課生徒支援・いじめ対策推進室 渡辺 宏之 室長補佐

〈講義〉「茨城県の教育」 義務教育課 湯原 徹 管理主事

〈講義・演習〉「給与事務Ⅱ」 総務課 給与担当 中屋 ちなつ 主査

〈講義〉「学校事務の共同実施」 笠間市立稲田中学校 岸本 由香 係長

〈研究協議〉「事務職員としての知識及び技能の向上」 義務教育課 湯原 徹 管理主事、企画管理課企画係職員

【受講者の声】

○事務職員も子供の教育や成長に関わる点で意識を高くもつ必要があるということ強く感じた。

○茨城県の教職員として学校教育に携わっているという自覚をもって仕事に励みたい。

○「共同実施」で悩みや問題を解決していき、業務改善に繋げていきたい。

○生徒や保護者の方へ対応する際に、言葉遣い等で不適切な発言をしないよう気をつけていきたい。

【企画管理課企画係より】

○市町村立学校事務職員研修講座は、昨年度まで義務教育課が主催していましたが、5年度より教育研修センターに移管されました。

○講義をとおして、事務職員の視点で、学校全体を見渡し、問題を発見し、解決する「チームとしての学校のあり方」を考える事務職員の将来像に迫る機会となりました。

○給与事務に関する講義及び演習では、実務をとおして、基礎的な知識を深め、資質・能力の向上につながった様子が見受けられました。

○研究協議では、自校のグランドデザインから学校教育目標の具現化に向け、事務職員としてのミッションを意欲的に考え、事務職員として教育活動を支援する自覚が高まった時間となりました。

○学校で「唯一の総務・財務等に通じる専門職」として、主体的・積極的に学校運営に参画する学校事務職員への進化が求められていることから、より一層充実した研修を構築してまいります。

◇5 令和5年度の長期研修が始まりました



9月21日(木)から、本年度の長期研修が始まりました。開講式で、秋本所長からは、24人の研修生に向けて「研究には批判的思考力、問いが大事」「子どもを主語にした学校づくりを」との話がありました。

代表挨拶では、鹿嶋市立大野中学校 横田拓也教諭から、「『学び続ける教員像の確立』を目指し、各自が研究を推進し、本研修の使命を果たしたい」と決意が述べられました。

各研修生が、本県教育に還元される成果を創り上げることができるよう、センター職員一同、支援してまいります。

■2 実践家の魅力に迫る! ~アクティブラーナーにインタビュー

◇1 北茨城市立平潟小学校 橋本 順徳 指導教諭 (R5 新任指導教諭研修講座受講)

橋本先生は、7月の研修講座の後、指導教諭として、8月3日、8日、9日、23日に、「北茨城市 ICT スキルアップ 夏季研修会」の企画・運営を担当されました。

○市教育委員会、市教務主任会、市情報教育部員会、ICT 支援員で、次のような項目について連携・分担しました。

- ①各校の情報教育部員が各校の研修内容の希望を調査
- ②①をまとめて講座の数と内容を決定 (ICT 活用指導力チェックリストを意識して)
- ③各校の教務主任と日程調整
- ④受講者募集、研修資料作成
- ⑤案内資料の作成・配付、受講者決定の連絡
- ⑥情報教育部員の当日の役割分担、ICT 支援員への参加依頼
- ⑦講座を4日間、計 10 講座実施
- ⑧受講者のリフレクションをまとめ、各校に配付

○受講希望者が Google フォームで申し込んだり、Google ドライブに保存した研修資料を各自で持参したりするようにして、運営担当者に負担がかからないようにしました。

○期間中は各室に5~6人の情報教育部員や ICT 支援員を配置し、個別指導(対応)を充実させました。

○日程調整等をオンラインで進め、教務主任や情報教育部員の負担を減らしました。

○北茨城市の ICT スキルは着実にアップしていると実感しています。加えて、各部署の連携、申し込みや資料配付のシステムの工夫など、新しいスタイルの研修体制の構築に貢献できたのではないかと思います。

※橋本先生は、7月の研修講座において、他校の指導教諭と活発な意見交換をされていました。早速、成果を生かされ、地域での研修会の企画運営に還元していただき、ありがたい限りです。今後も、授業改善へ向け、「Google クラブルーム指導教諭」等の場で、実践事例を含め有用な情報を共有して、地域の先生方との連携を広げていただければ幸いです。

◇2 ひたちなか市立津田小学校 増子 弘之 教諭 (R4「未来を創る STEAM 教育研修講座」受講)

増子先生は、「STEAM 教育におけるアート」で研修した「対話型鑑賞」を校内で共有し、学校全体での取り組みに広がっています。

○津田小学校では、令和5年度より毎週金曜日に全学級で「朝鑑賞」として実施しており、1学期には12回実施しました。対話型鑑賞によって、「図画工作の、鑑賞する力」と「国語の、思いを言葉で表現する力」を生かした教科等横断的な学習を展開しています。

○子供たちからは、「いろいろな意見があって楽しい」「友達の意見を聞いて、自分の考えが深まる」「人によっていろんな見方があるって勉強になる」などの感想があがっていて、1年生から6年生まで朝鑑賞を楽しんでくれている。

ます。また、毎週使用している作品は、家庭でも話題にできるよう、学校 HP に掲載しています。よろしければご覧ください。

【学校 HP URL】

<https://hitachinaka.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=0810033&frame=weblog>

※増子先生から、「朝鑑賞に使用する作品を紹介して欲しい」というご連絡をいただき、茨城県近代美術館の所蔵作品などをご紹介します。茨城県近代美術館 HP の「所蔵作品検索システム」を使用すると、様々な作品を鑑賞することができます。津田小学校では、朝鑑賞に継続的に取り組まれていくことと思います。対話型鑑賞をとおして、子供たちに、お互いの多様なよさを認め合う心が育まれていくことを期待しています。

◇3 つくば市立葛城小学校 柴崎 裕子 教諭（R5「新任学年主任研修講座（小学校）」受講）

「担任の枠を越え、全員で学年の児童全員をみるようにしています」…こう笑顔で語る柴崎先生は、1学年で、初めての学年主任を担当されています。

○研修で学んだ組織マネジメントやコーチング、カリキュラム・マネジメント等を生かし、日々学年の先生方とともに温かい雰囲気のチームづくりに取り組んでいます。

○「どの先生も、よりよくなりたいと心の底では思っている。そこを信じて、見守る」「自分一人で悩まず、学年のスタッフを信じて任せる」…研修で聞いたこれらのことに心掛けてきました。特に、担任の先生が先を見通して仕事を進めることができるよう、密な情報共有に努めています。その結果、学年の先生方はとてもよく協働して動いてくれます。

※柴崎先生は、目的の共有と情報共有を大切に、何事も「信じて任せる」ことを基本に日々実践されています。それが学年の先生方がいつでも相談できる、安心感のある学年経営に結実していることがうかがえます。今後も、研修で学ばれたことや経験されたことを校内で共有され、担任の先生が生き生きと働ける組織づくりを広げていただけるよう期待しています。

◇4 稲敷市立東中学校 今田 剛 教諭（「R5中堅前期中学校理科研修」受講）

今田先生は、学習ステップを意識した「東中授業スタイル」を着実に実践することによって、生徒の思考力、表現力、判断力の育成に力を注いでいます。

○初任者のときから、研修等で学んだことは、すぐ翌日の授業で反映するように心掛けています。センターの研修では、特に、評価方法、考察の書き方、個に応じたアプローチなど、疑問に感じたことについてすぐに職員の方々に訊ねることができ、とても有意義な時間を過ごしました。

○校内研修支援でセンター職員が学校に来られた際の公開授業では、思考を働かせる問いかけの工夫をしたり、授業後半にワールドカフェ方式を取り入れてグループの実験結果を基に考えを述べ合ったりするなど、生徒の表現力向上を目標とした展開を工夫しました。

※今田先生は、日々の研修で得た成果を授業実践に迅速に取り入れられています。理解にとどまらず、行動の変容にまで注力されていることは、大変模範的です。学校や地域のエンジンとなり、活躍されることを期待しています。

◇5 県立水戸第一高等学校附属中学校 斎藤 正彦 教諭（「R5 新任生徒指導主事研修講座」受講）

斎藤先生は、組織的対応における生徒指導主事としての具体的な行動等、研修で得た知見を生かし、日々先生方との連携を大切にしながら取り組んでいます。

○研修で学んだ未然防止（プロアクティブな取組）と課題早期発見対応（リアクティブな取組）について

て、本校・本校生の実態を把握・検証し、より積極的な生徒支援へと改善を図っています。

○夏季休業中に校内研修を企画し、「重層的支援構造」に基づく生徒支援の在り方について学び合い、ワ
ンチームで支援できる体制づくりに励んでいます。

○附属学校というイメージでみられがちですが、一括りにせず子供の内面に目を向けて支援することを
大切にしています。一人一人の生徒が安全安心な生活を送れて、学校へ行ってよかったと感じてもらえ
たら何より嬉しいです。

※斎藤先生は、一人一人の子供のつまずきはどう向き合うか、よりよい社会を創造する一員として子供
たちをどう育むか模索しながら、新任の生徒指導主事として、「教職員の動きをつくるための力量」を身
に付けようと尽力されています。今後も、管理職と連携し、可能な限りオープンに迅速に対応できる「チ
ーム学校」づくりに邁進され、実践例を積極的に発信していただけることを期待しています。

■3 参考資料等のご紹介

▼チームで救え!こどもを虐待から!! (教育相談課)

4月1日に「こども基本法」が施行されたことはご案内のとおりです。次代の社会を担う全てのこどもが、生涯に
わたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれて
いる環境等にかかわらず、その権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実
現を目指す…ということがうたわれています。

しかし、現実には、児童虐待相談対応件数が過去最多を記録するなど依然厳しい状況が続いています。私たち
が関わるこどもの心身を守り・救うため、学校での観察や気づきなど、虐待事案への対応についてみんなで再確
認しましょう!

下のURLは、学校・教育委員会等向け虐待対応の手引き(文部科学省)、学校現場における児童虐待対応
(nits)資料です。ご一読ください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1416474.htm

<https://www.nits.go.jp/materials/intramural/131.html>

■4 推挽録 (編集に寄せて) (特別支援教育課・主査・岡村 正洋)

▽9月中旬に新型コロナに感染し、5日間休みをいただきました。多分、東京から帰りの電車の中で3時間以上
も閉じ込められたのが原因かなと思います。その日は、台風13号から変わった熱帯低気圧がもたらした線状降
水帯の影響により、日立市、高萩市、北茨城市に甚大な災害をもたらした日でした。

▽翌日からだるさはありませんでしたが、ソフトバレーボールをしたり、農作業をしたりと動くことはできました。しかし、月
曜日に発熱し、簡易検査をしたら陽性のマーク。家の中で隔離され、熱やだるさ、筋肉痛、腰痛との闘いでした。
現在も味覚・嗅覚が戻っていませんが、回復を気長に待ちたいと思います。病気は、「したいこと」「できること」
の生の可能性を奪っていきます。

▽それにしても、人類はウイルスとの闘いとも言われますが、毎年、250万人の人がエイズ、結核、マラリアで死亡
しています。1347~1351年に発生したペストは、死者数が2億人とも言われています。新型コロナは、3月に
集計が終えていますが、死者数は約688万人です。世界は、その感染症が豊かな国の人々への脅威ではないと
分かった途端に忘れてしまうという歴史を繰り返してきています。カミュの「ペスト」には、最後の方に、「おそらく
いつの日か、人間に不幸と教えをもたらすために、ペストはネズミたちを目覚めさせ、どこか幸福な町で死なせるた

めに送りこむのである。」とあります。

▽自然災害や未知なるウイルス等による不条理感がこれからも私たちに襲いかかるとは思います。いかに神谷美恵子さんが言う「生きがいや生きがい感」を自分の中に発見し、人生を紡いでいくかが大切なのかなあと痛感した日々でした。